

令和3年社会生活基本調査 生活行動に関する結果 (熊本県分の概要)

目 次

調査の概要、本文の要約	2
利用上の主な用語、注意	5
1 「学習・自己啓発・訓練」	6
2 「ボランティア活動」	9
3 「スポーツ」	14
4 「趣味・娯楽」	20
5 「旅行・行楽」	26
「推定人口」に関する表	31
「ボランティア活動」関係の参考資料	32

熊本県企画振興部 交通政策・統計局
統計調査課
令和5年(2023年)3月

調査の概要、本文の要約

この資料は、令和3年に実施された「令和3年社会生活基本調査」のうち、総務省統計局から公表された「生活行動に関する結果」について、熊本県関係の主なものを取りまとめたものである。

1 調査の概要

(1) 調査の目的

社会生活基本調査は、統計法に基づく基幹統計『社会生活基本統計』を作成するための統計調査であり、生活時間の配分や余暇時間における主な活動の状況など、国民の社会生活の実態を明らかにするための基礎資料を得ることを目的としている。

(2) 調査の期日

令和3年(2021年)10月20日現在

(3) 沿革

社会生活基本調査は、昭和51年(1976年)以来、5年ごとに行われている。令和3年(2021年)調査は、10回目の調査である。

(4) 調査の対象

平成27年国勢調査の調査区のうち総務大臣が指定した約7,600調査区から、それぞれ12世帯ずつ選定された約9万1千世帯(熊本県内は約1,700世帯)に居住する、10歳以上の世帯員約19万人を対象とした。

(5) 調査事項

- ア 1日の生活時間の配分に関する事項
- イ 過去1年間の生活行動に関する事項
- ウ ふだんの就業状態等世帯員の属性に関する事項
- エ 住居の種類等世帯の属性に関する事項

2 結果の要約

○学習・自己啓発・訓練

- ✓ 1年間に「学習・自己啓発・訓練」を行った人は、熊本県で54万人。行動者率は35.7パーセントであり、全国よりも3.9ポイント低い。
- ✓ 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率は、「芸術・文化」、「その他」が低下し、「介護」は横ばいとなり、それ以外は5年前より上昇した。

○ボランティア活動

- ✓ 1年間に「ボランティア活動」を行った人は、熊本県で33万5千人。行動者率は22.1パーセントであり、全国よりも4.3ポイント高い。
- ✓ 「ボランティア活動」の種類別行動者率は、「国際協力に関係した活動」を除き、5年前より低下した。
- ✓ 「災害に関係した活動」の行動者率は、75歳以上を除く全ての年齢階級（男女計）で全国を上回っている（ただし、5年前との比較では低下している。）。
- ✓ 形態別では、「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」に加入しての行動者率が10.1パーセントと最も高い。

○スポーツ

- ✓ 1年間に「スポーツ」を行った人は、熊本県で100万6千人。行動者率は66.6パーセントであり、全国よりも0.1ポイント高い。
- ✓ 「スポーツ」の種類別行動者率は、「ウォーキング・軽い体操」で5年前より上昇（「サイクリング」はわずかに上昇）し、「水泳」は低下した。

○趣味・娯楽

- ✓ 1年間に「趣味・娯楽」を行った人は、熊本県で127万1千人。行動者率は84.1パーセントであり、全国よりも2.2ポイント低い。
- ✓ 「趣味・娯楽」の種類別行動者率は、5年前と比較して「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」、「スマートフォン家庭用ゲーム機などによるゲーム」などが上昇、「カラオケ」、「遊園地、動植物園、水族館などの見物」などが低下した。

○旅行・行楽

- ✓ 1年間に「旅行・行楽」を行った人は、熊本県で76万3千人。行動者率は50.5パーセントであり、全国よりも1.0ポイント高い。
- ✓ 「旅行・行楽」の種類別行動者率は、全ての種類で5年前より低下した。

◆詳細データについては、総務省統計局ホームページ、e-Statをご覧ください。

総務省統計局の「令和3年社会生活基本調査」のページ

<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2021/index.html>

e-Statの「社会生活基本調査」のページ（昭和61年（1986年）調査以降）

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search?page=1&toukei=00200533&survey=%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E7%94%9F%E6%B4%BB%E5%9F%BA%E6%9C%AC%E8%AA%BF%E6%9F%BB>

※ e-Stat／政府統計の総合窓口

－利用上の主な用語－

○行動者数・・・過去1年間（令和2年10月20日から令和3年10月19日まで）に該当する種類の活動を行った人（10歳以上）の数

○行動者率・・・10歳以上の人口に占める行動者数の割合（％）

※ 年齢階級別等でも算出されている。行動者率の分母は、31ページの「推定人口」である。

－利用上の注意－

- 1 ポイント差（%pt）、構成比等の比率は、表章数値から算出している。
- 2 本文中の各活動の種類名については、一部省略している。
- 3 熊本県分の結果のうち、年齢別等の内訳の数値は、調査対象者数が少ないため、標本誤差が比較的大きい。
- 4 今回の調査結果は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けているものと考えられる。→詳細は枠外（※）
- 5 「その他」とは調査項目の一つとしての「その他」である。一部の項目を省略してグラフ等に行っている場合、表示している項目以外という意味ではない。

（※）1年間の主な生活行動の調査時期は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う2回の「新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言」を含んだ期間となっており、感染症の影響による三密回避の日常化や数度の行動制限により、前回調査となる5年前の2016年に比べ、自由時間における生活行動の状況について様々な変化を伴った結果となっていることがうかがえる。

結果の概要

1 学習・自己啓発・訓練

(1) 1年間に「学習・自己啓発・訓練」を行った人は、熊本県で54万人。行動者率は35.7パーセントであり、全国よりも3.9ポイント低い。

【概況】

「学習・自己啓発・訓練」について、過去1年間に何らかの種類の活動を行った人（10歳以上）の数（行動者数。以下同じ。）（男女計）は54万人（男性25万7千人、女性28万3千人）である。10歳以上人口に占める割合（行動者率。以下同じ。）は35.7パーセント（男性35.8パーセント、女性35.7パーセント）であり、全国よりも3.9ポイント低い（男性は4.0ポイント低く、女性は3.8ポイント低い）。（表1）

（表1）

	行動者数（千人）			行動者率（％）		
	男	女	男女計	男	女	男女計
熊本県	257	283	540	35.8	35.7	35.7
全国	21,801	22,755	44,556	39.8	39.5	39.6

【熊本県と全国、年齢階級別】

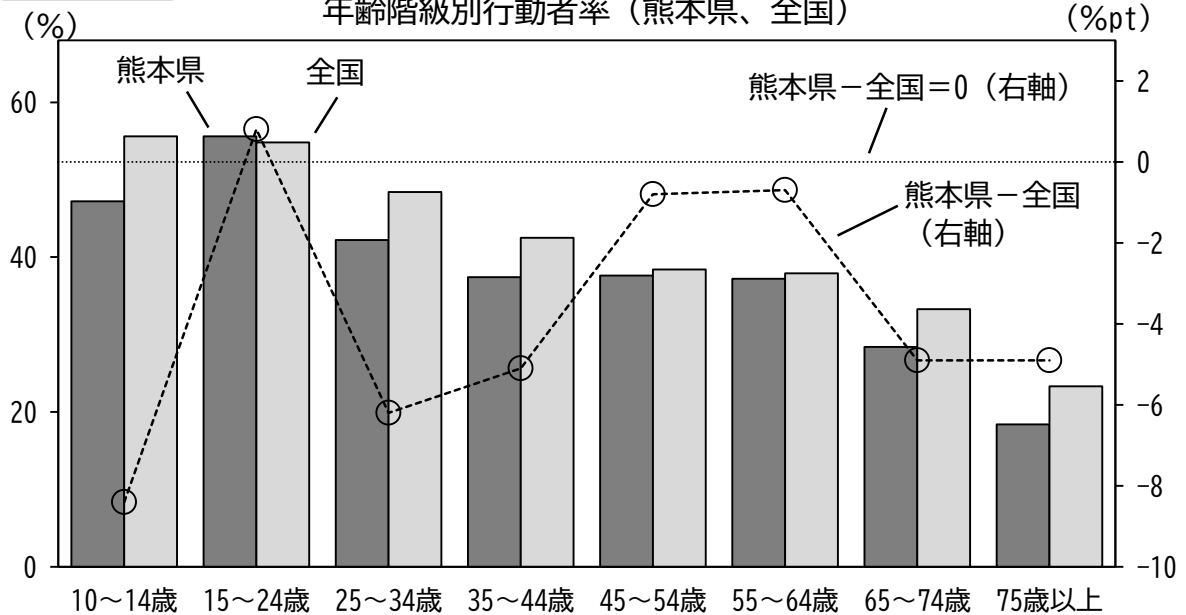
年齢階級別にみると、熊本県では、15～24歳の年齢階級が55.6パーセントと最も高い（全国では、10～14歳が最も高く、0.8ポイント差で15～24歳が続く。）。

15～24歳の年齢階級を除き、全ての年齢階級で、熊本県が全国を下回っている。

（図1-1）

図1-1

「学習・自己啓発・訓練」の
年齢階級別行動者率（熊本県、全国）

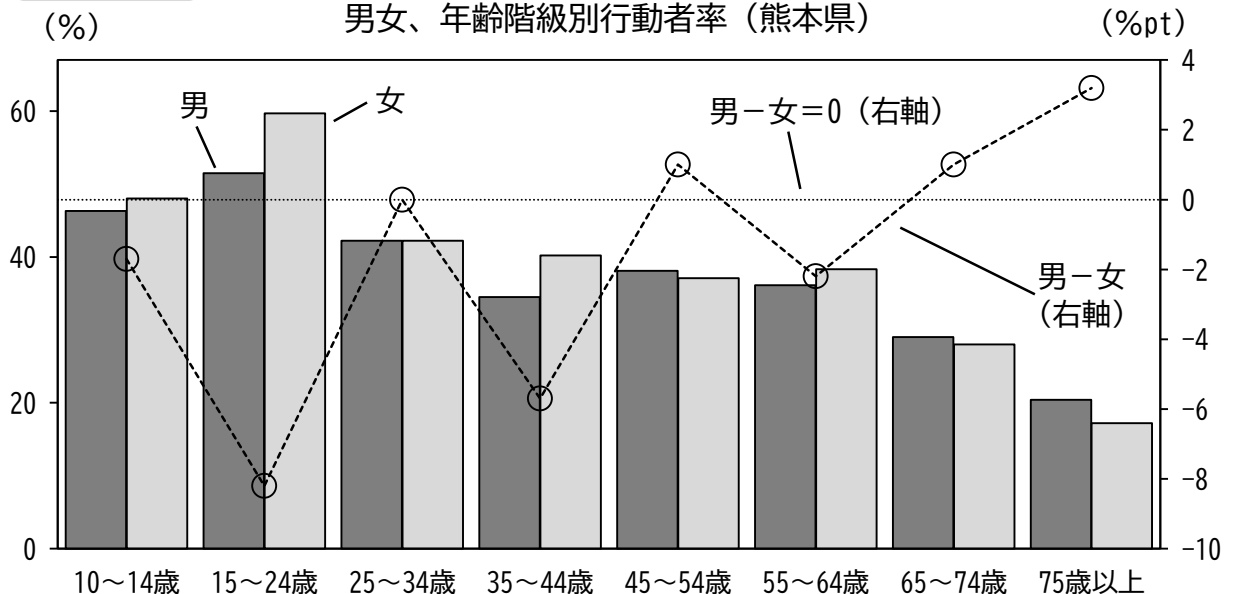


【熊本県の行動者率、男女別・年齢階級別】

熊本県における「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を、男女別・年齢階級別にみると、最も高いのは、男女とも、15~24歳の階級であり、男性では51.5パーセント、女性では59.7パーセントの行動者率となっている。逆に最も低いのは、男女とも、75歳以上の階級であり、男性では20.4パーセント、女性では17.2パーセントの行動者率となっている。また、45~54歳、65~74歳、75歳以上の年齢階級では、男性の行動者率が、女性を上回っている。（図1-2）

図1-2

「学習・自己啓発・訓練」の
男女、年齢階級別行動者率（熊本県）



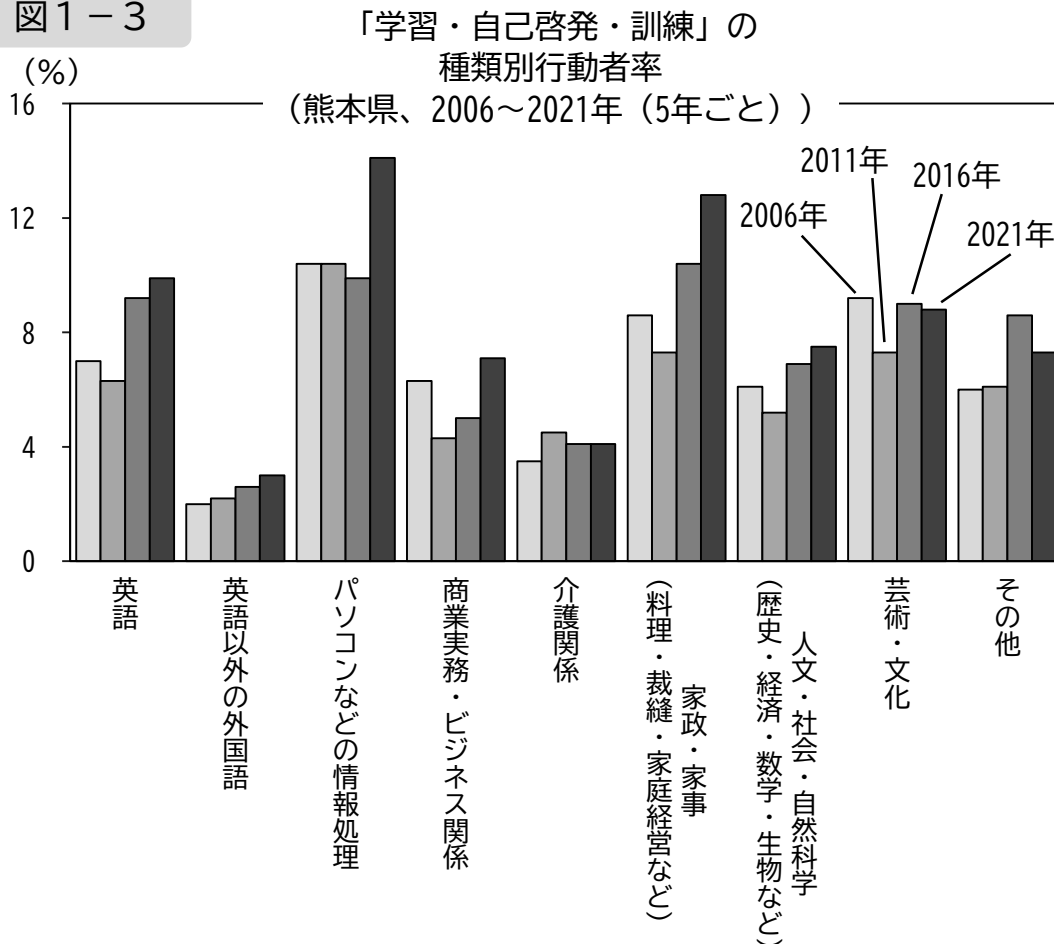
(2) 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率は、「芸術・文化」、「その他」が低下し、「介護」は横ばいとなり、それ以外は5年前より上昇した。

【熊本県の行動者率、種類別・4回分】

熊本県における「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を、種類別に5年前と比較すると、「パソコンなどの情報処理」が4.2ポイント上昇、「家政・家事」が2.4ポイント上昇、「英語」が0.7ポイント上昇となっている。令和3年(2021年)調査では、「パソコンなどの情報処理」が14.1パーセントと最も高く、次いで「家政・家事」が12.8パーセント、「英語」が9.9パーセントとなっている。(図1-3)

※ 図1-3では、平成18年(2006年)調査からのデータをグラフ化している。

図1-3

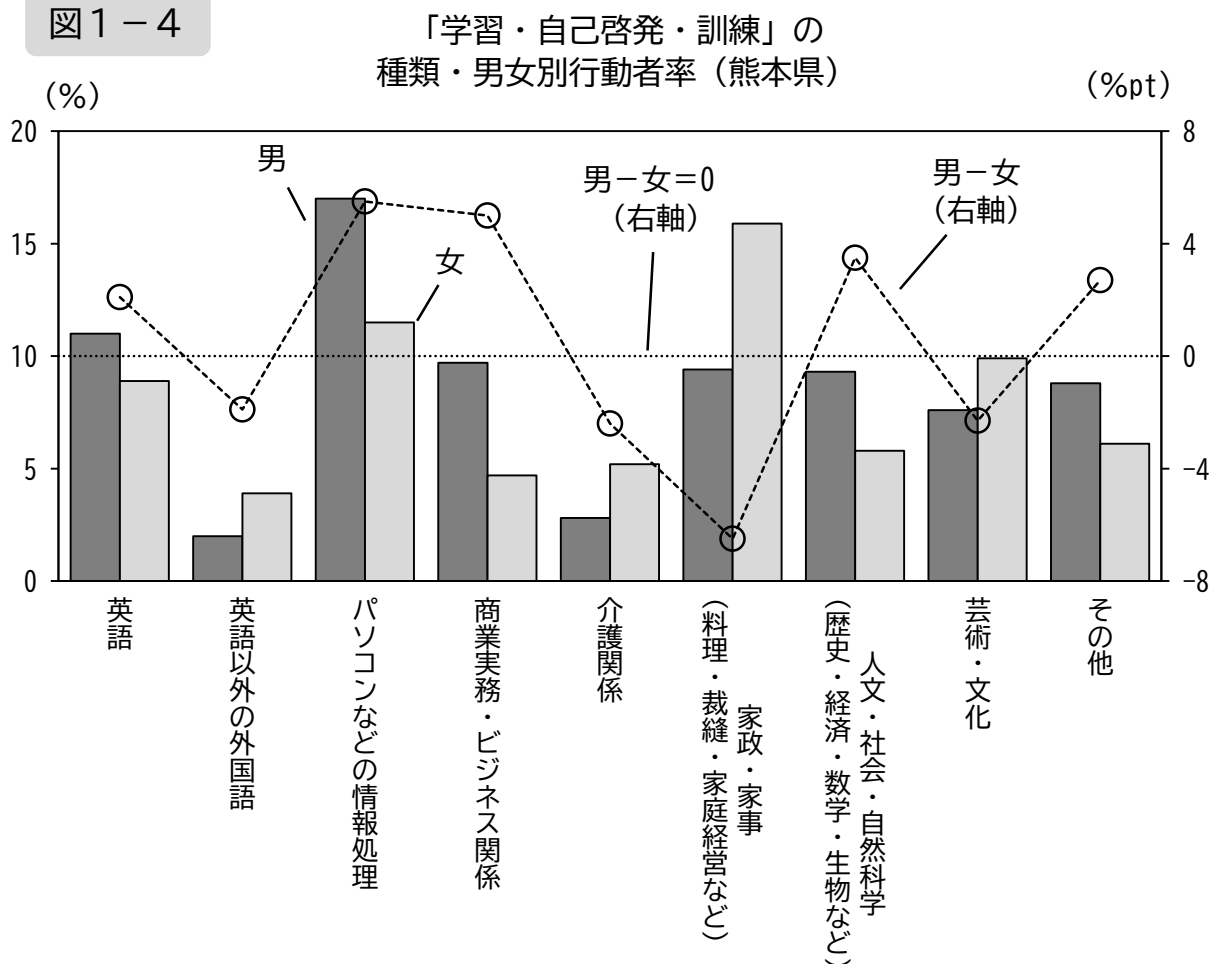


【熊本県の行動者率、男女別・種類別】

熊本県における「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を、男女別・種類別にみると、男性は「パソコンなどの情報処理」が17.0パーセントと最も高く、次いで「英語」が

11.0パーセント、「商業実務・ビジネス関係」が9.7パーセント、「家事・家政」が9.4パーセントとなっている。女性は「家事・家政」が15.9パーセントと最も高く、次いで「パソコンなどの情報処理」が11.5パーセント、「芸術・文化」が9.9パーセント、「英語」が8.9パーセントとなっている。（図1-4）

図1-4



2 ボランティア活動

(1) 1年間に「ボランティア活動」を行った人は、熊本県で33万5千人。行動者率は22.1パーセントであり、全国よりも4.3ポイント高い。

【概況】

熊本県における「ボランティア活動」の行動者数（男女計）は33万5千人（男性18万1千人、女性15万3千人）である。行動者率は22.1パーセント（男性25.3パーセント、女性19.3パーセント）であり、全国よりも4.3ポイント高い（男性は7.1ポイント高く、女性は1.8ポイント高い）。（表2）

(表2)

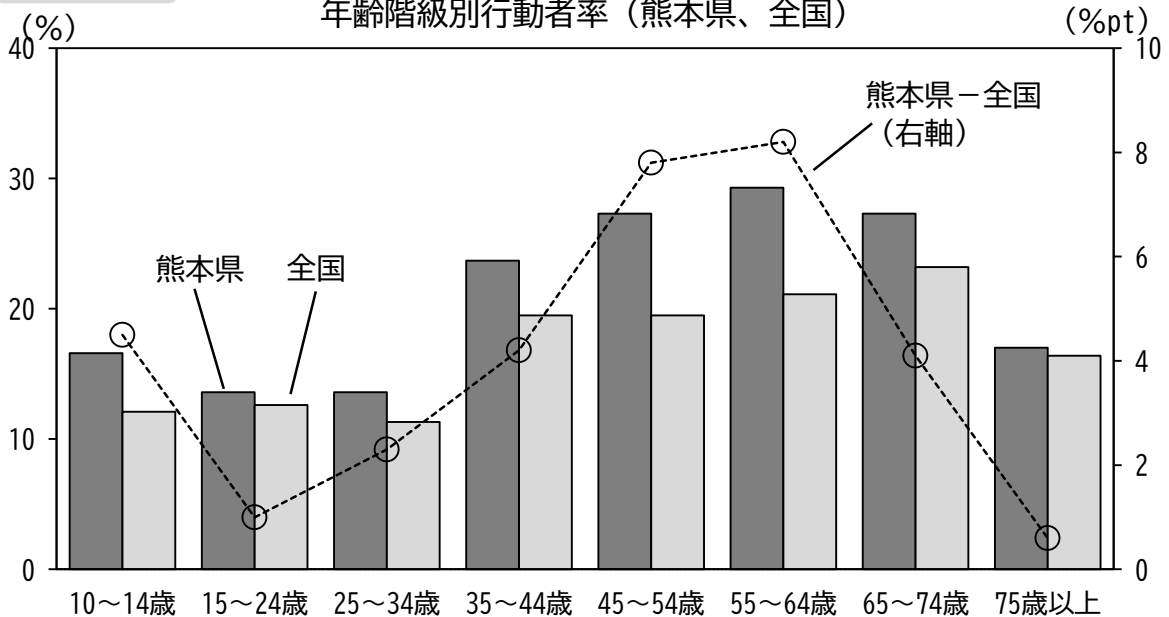
	行動者数 (千人)			行動者率 (%)		
	男	女	男女計	男	女	男女計
熊本県	181	153	335	25.3	19.3	22.1
全国	9,958	10,098	20,056	18.2	17.5	17.8

【熊本県と全国、年齢階級別】

年齢階級別にみると、熊本県では、55～64歳の年齢階級が29.3パーセントと最も高くなっている（全国では65～74歳が最も高い。）。更に、全ての年齢階級で、熊本県が全国を上回っている。（図2-1）

図2-1

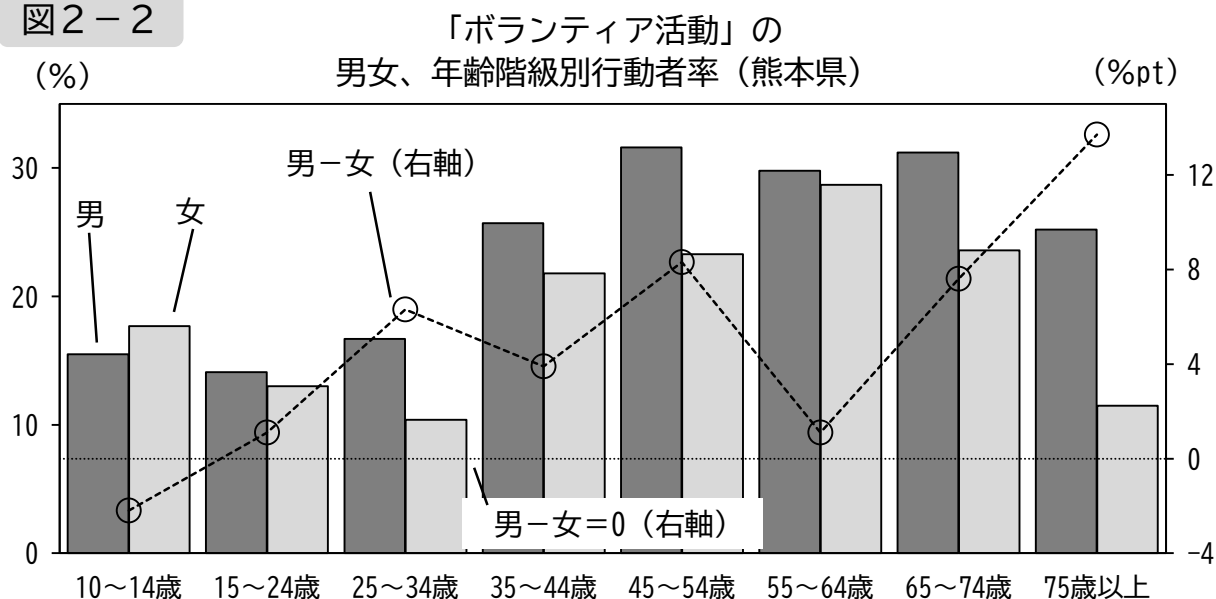
「ボランティア活動」の 年齢階級別行動者率（熊本県、全国）



【熊本県の行動者率、男女別・年齢階級別】

熊本県における「ボランティア活動」の行動者率を、男女別・年齢階級別にみると、最も高いのは、男性では45～54歳の31.6パーセント、女性では55～64歳の28.7パーセントである。逆に最も低いのは、男性では15～24歳の14.1パーセント、女性では25～34歳の10.4パーセントである。また、10～14歳を除く全ての年齢階級で、男性の行動者率が、女性を上回っている。（図2-2）

図2-2



(2) 「ボランティア活動」の種類別行動者率は、「国際協力に関係した活動」を除き、5年前より低下した。

【熊本県の行動者率、種類別・4回分】

熊本県における「ボランティア活動」の行動者率を、種類別に5年前と比較すると、上昇したものは、「国際協力に関係した活動」のみであった。「まちづくりのための活動」は3.5ポイントの低下、「子供を対象とした活動」は3.7ポイントの低下となっている。令和3年（2021年）調査では、「まちづくりのための活動」が11.3パーセントと最も高く、次いで「子供を対象とした活動」が5.8パーセントなどとなっている。（図2-3）

※ 図2-3では、平成18年（2006年）調査からのデータをグラフ化している。

【熊本県の行動者率、男女別・種類別】

熊本県における行動者率を、男女別・種類別にみると、最も高いのは、男性では「まちづくりのための活動」の13.9パーセント、次いで「子供を対象とした活動」の5.7パーセントなどとなっている。女性でも「まちづくりのための活動」の9.0パーセントが最も高く、次いで「子供を対象とした活動」が5.9パーセントなどとなっている。（図2-4）

図2-3

「ボランティア活動」の
種類別行動者率
(熊本県、2006～2021年(5年ごと))

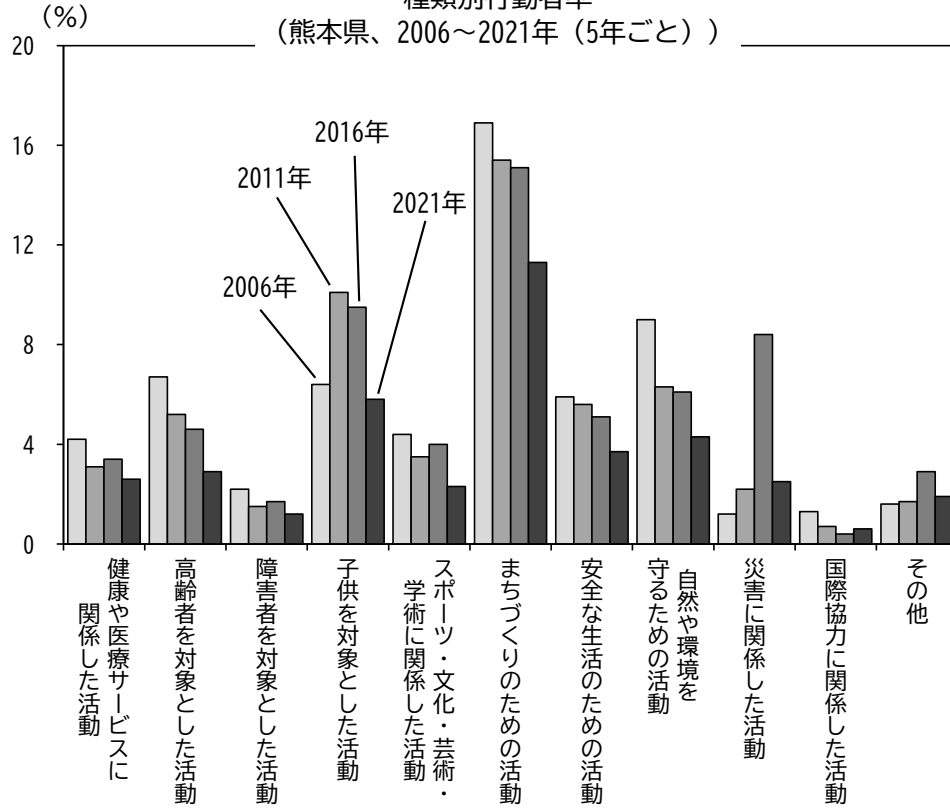
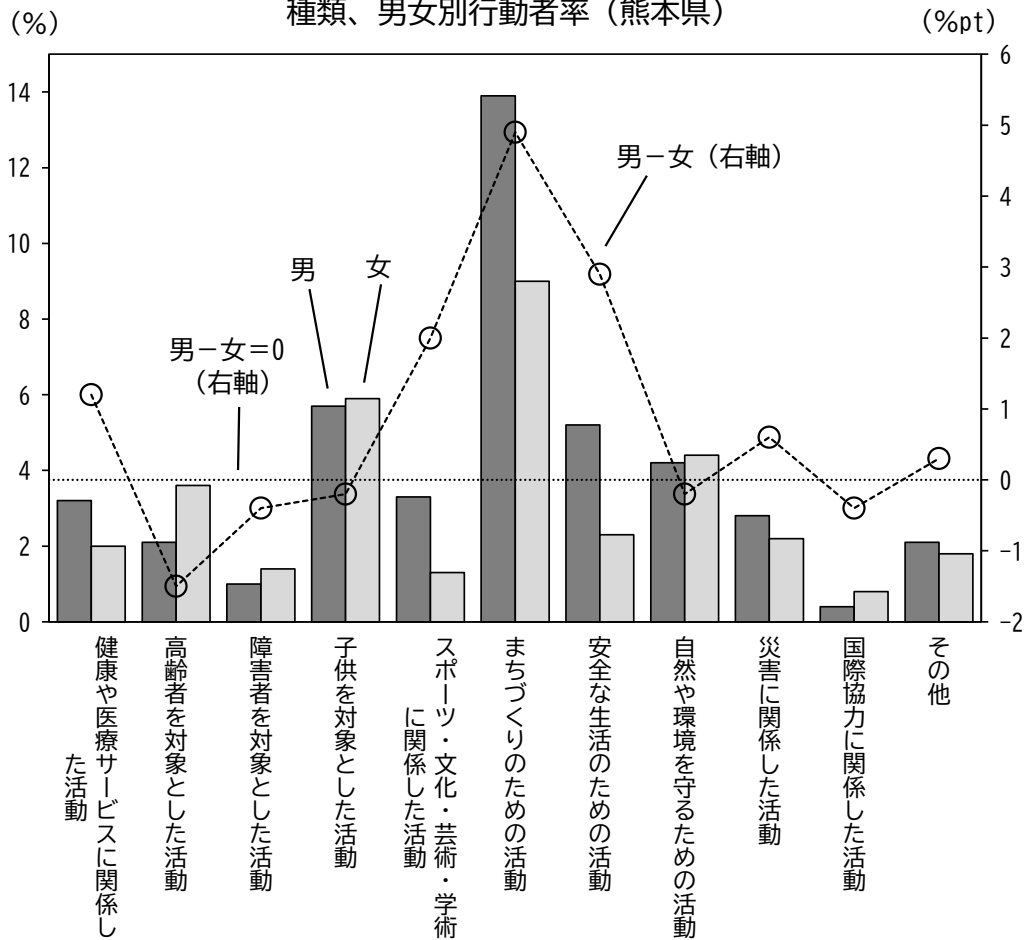


図2-4

「ボランティア活動」の
種類、男女別行動者率 (熊本県)



(3) 「災害に関係した活動」の行動者率は、75歳以上を除く全ての年齢階級（男女計）で全国を上回っている（ただし、5年前との比較では低下している。）。

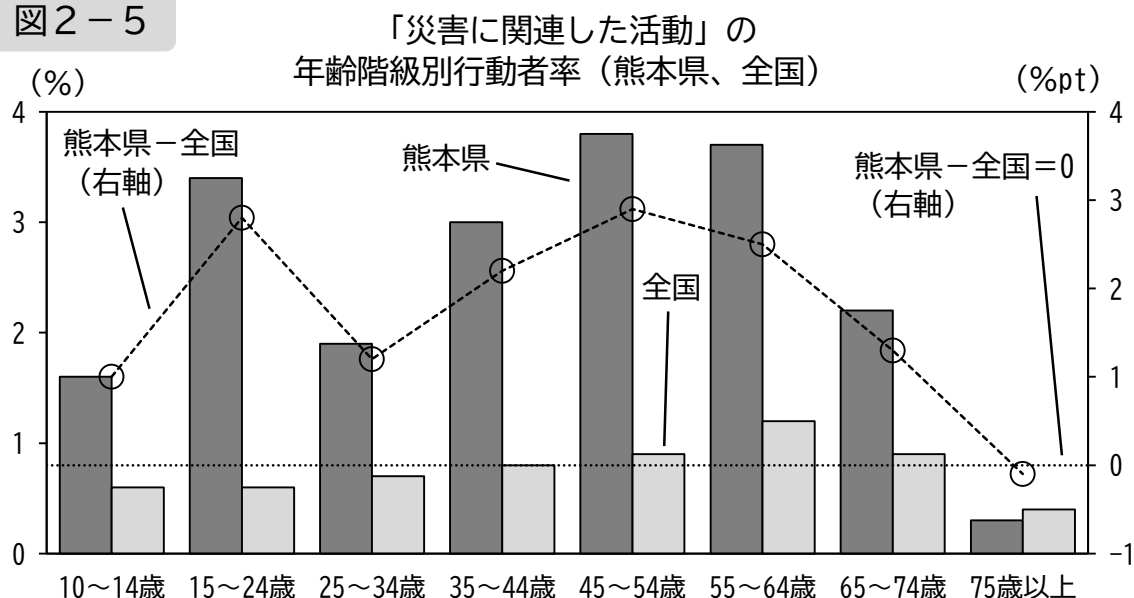
【熊本県と全国、災害関係の活動の行動者率、年齢階級別】

「災害に関係した活動」の行動者率を、年齢階級別に全国と比べてみると、75歳以上の階級を除く全ての年齢階級で熊本県が上回っており、特に45～54歳で2.9ポイント、15～24歳で2.8ポイント上回っている。（図2-5）

※ 図2-3でみたように、熊本県の「災害に関連した活動」の行動者率は、熊本地震の影響で高まった平成28年（2016年）調査との比較では大幅に低下している。しかし、他の都道府県との比較では、令和3年（2021年）調査でも、32ページに転載した資料のとおり最も高い。令和2年7月豪雨との関連が、要因として考えられる。逆に、平成23年（2011年）調査（調査対象となる1年間の期間中に、東日本大震災が発生した。全国の行動者率が、平成18年（2006年）調査と比較して上昇した。）では、熊本県の行動者率は、全ての年齢階級（男女計）で、全国を下回っていた。

また、年齢階級別にみた特徴として、全国では、行動者率が年齢とともに緩やかに上昇して、高齢層で低下している。一方で、熊本県では、15～24歳の年齢階級での行動者率も高く、2つの山ができています。（図2-5）

図2-5

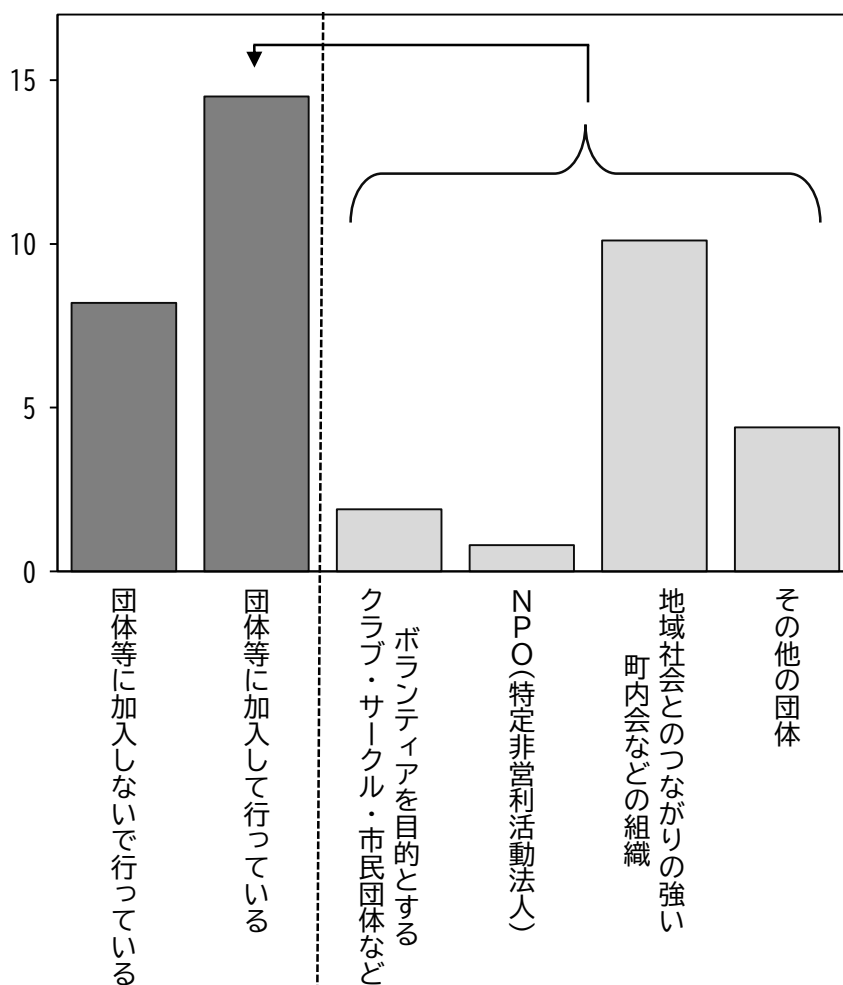


(4) 形態別では、「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」に加入しての行動者率が10.1パーセントと最も高い。

図2-6

「ボランティア活動」の
形態別行動者率

(%)



【熊本県、形態別の行動者率】

熊本県における「ボランティア活動」の行動者率を形態別にみると、団体等に参加して行っている活動が、参加しないで行っている活動よりも高くなっている。前者を細分した上で比較すると、「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」（10.1パーセント）に参加して行っている活動が最も高く、次いで「団体等に参加しないで行っている」（8.2パーセント）活動の行動者率が高い。（図2-6）

3 スポーツ

（1）1年間に「スポーツ」を行った人は、熊本県で100万6千人。行動者率は66.6パーセントであり、全国よりも0.1ポイント高い。

【概況】

熊本県における「スポーツ」の行動者数（男女計）は100万6千人（男性516千人、女性490人）である。行動者率は66.6パーセント（男性71.9パーセント、女性61.8パーセント）であり、全国と比較し0.1ポイント高い（男性は2.0ポイント高く、女性は1.5ポイント低い。）。（表3）

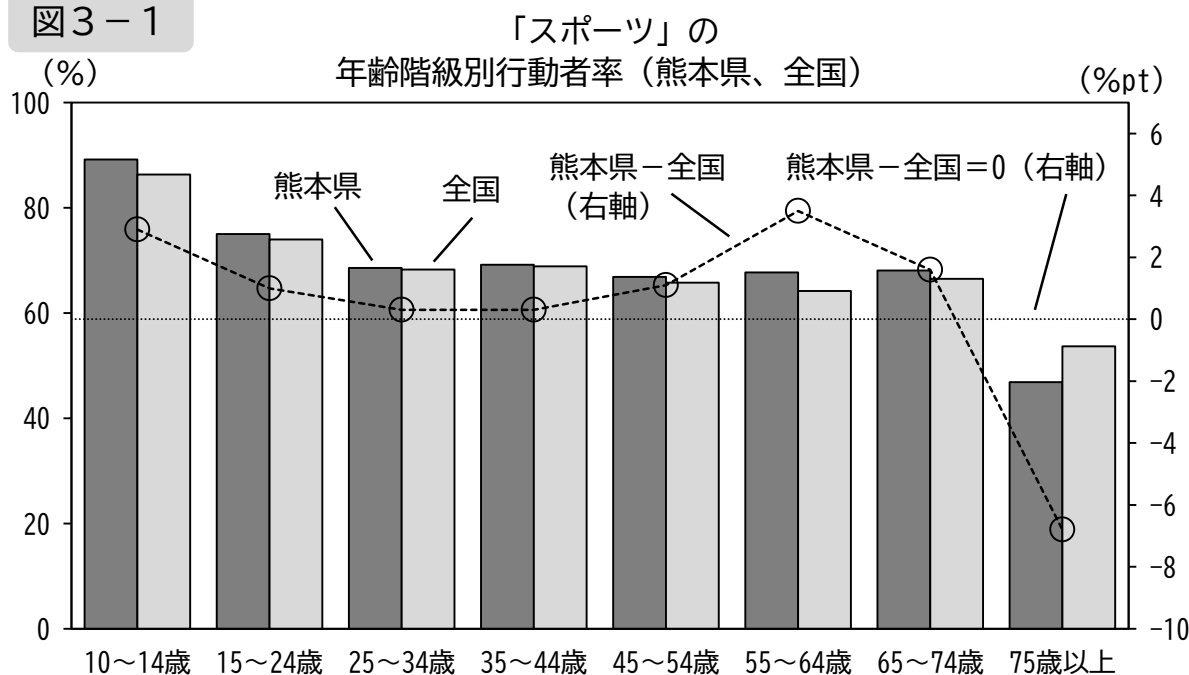
（表3）

	行動者数（千人）			行動者率（％）		
	男	女	男女計	男	女	男女計
熊本県	516	490	1,006	71.9	61.8	66.6
全国	38,308	36,477	74,785	69.9	63.3	66.5

【熊本県と全国、年齢階級別】

行動者率を年齢階級別にみると、熊本県、全国ともに、10～14歳が最も高く、次いで15～24歳が高い。それより高い年齢階級でもおおむね同水準であるが、75歳以上では大幅に低くなる。全国との比較では、75歳以上の階級で最も差が大きく、熊本県が全国を6.8ポイント下回っている。その他の階級では、熊本県が全国を上回っている。（図3-1）

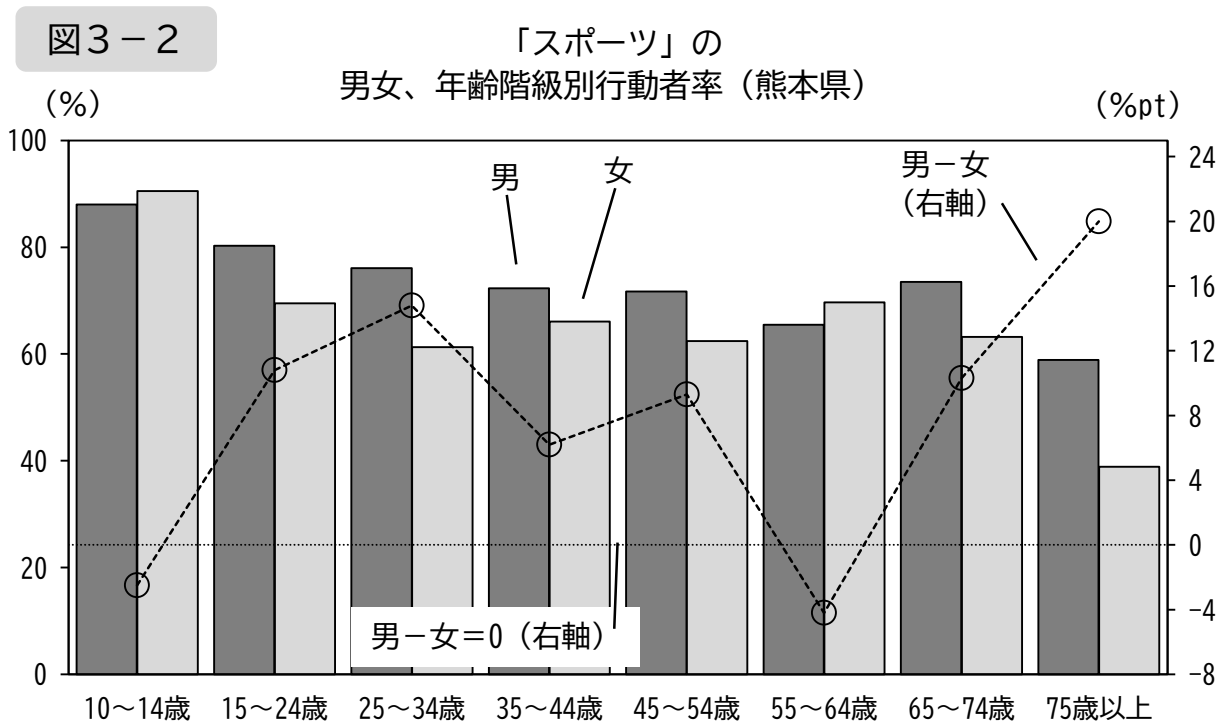
図3-1



【熊本県の行動者率、男女別・年齢階級別】

熊本県における「スポーツ」の行動者率を、男女別・年齢階級別にみると、最も高いのは、男女とも10～14歳であり、男性が88.0パーセント、女性が90.5パーセントとなっている。最も低いのは、男女とも75歳以上であり、男性が58.9パーセント、女性が38.9パーセントとなっている。なお、女性では、比較的若い25～34歳が、それに次ぐ低い行動者率となっており、男性のグラフの形状とは相違している。

年齢階級別に男性と女性を比べると、10～14歳、55～64歳を除き、男性の行動者率の方が高くなっている。（図3-2）



(2) 「スポーツ」の種類別行動者率は、「ウォーキング・軽い体操」で5年前より上昇（「サイクリング」はわずかに上昇）し、「水泳」は低下した。

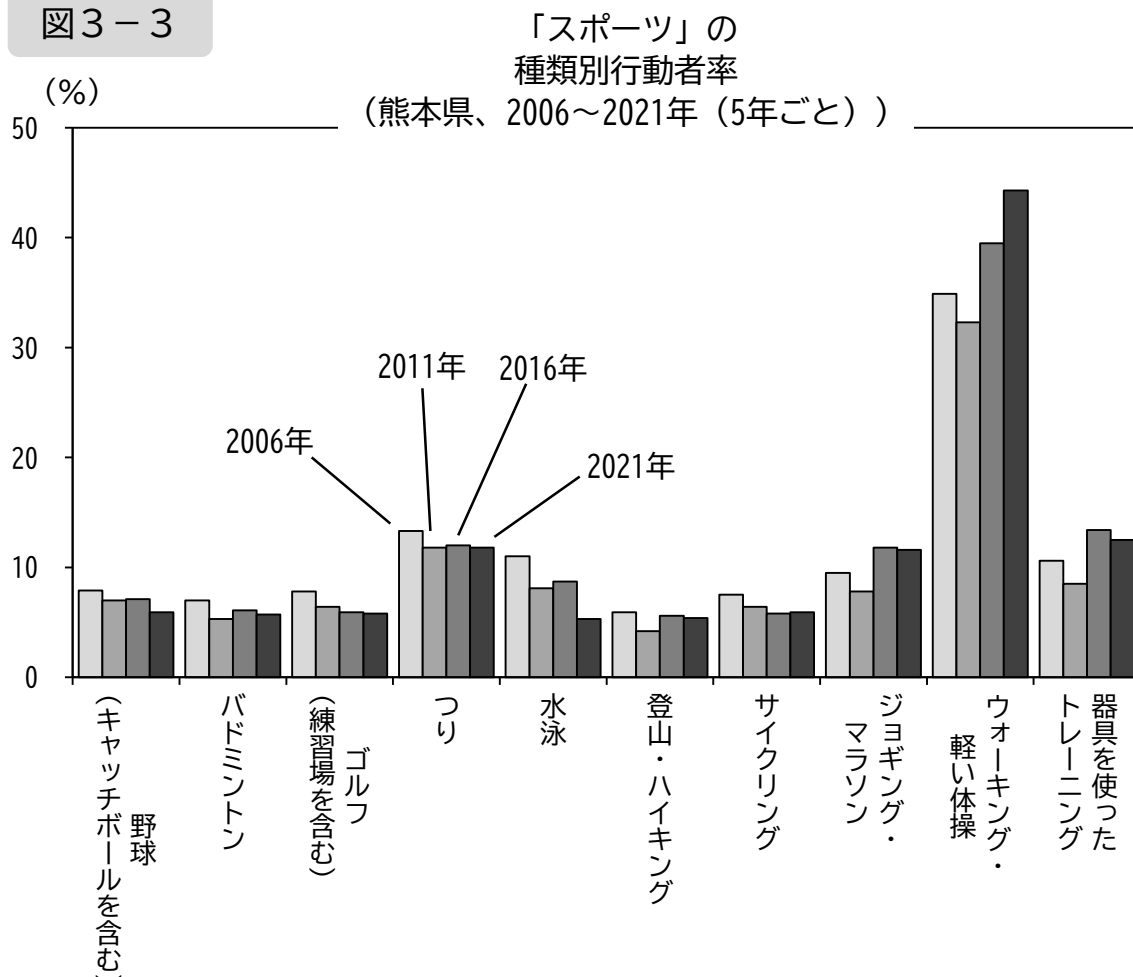
【熊本県の行動者率、種類別・4回分】

熊本県における「スポーツ」の行動者率を、種類別に5年前と比較すると、「ウォーキング・軽い体操」が4.8ポイント上昇、「水泳」が3.4ポイント低下などとなっている。令和3年（2021年）調査では、「ウォーキング・軽い体操」が44.3パーセントで最も高く、次いで「器具を使ったトレーニング」が12.5パーセントなどとなっ

ている。(図3-3)

※ 図3-3では、平成18年(2006年)調査からのデータをグラフ化している。

図3-3



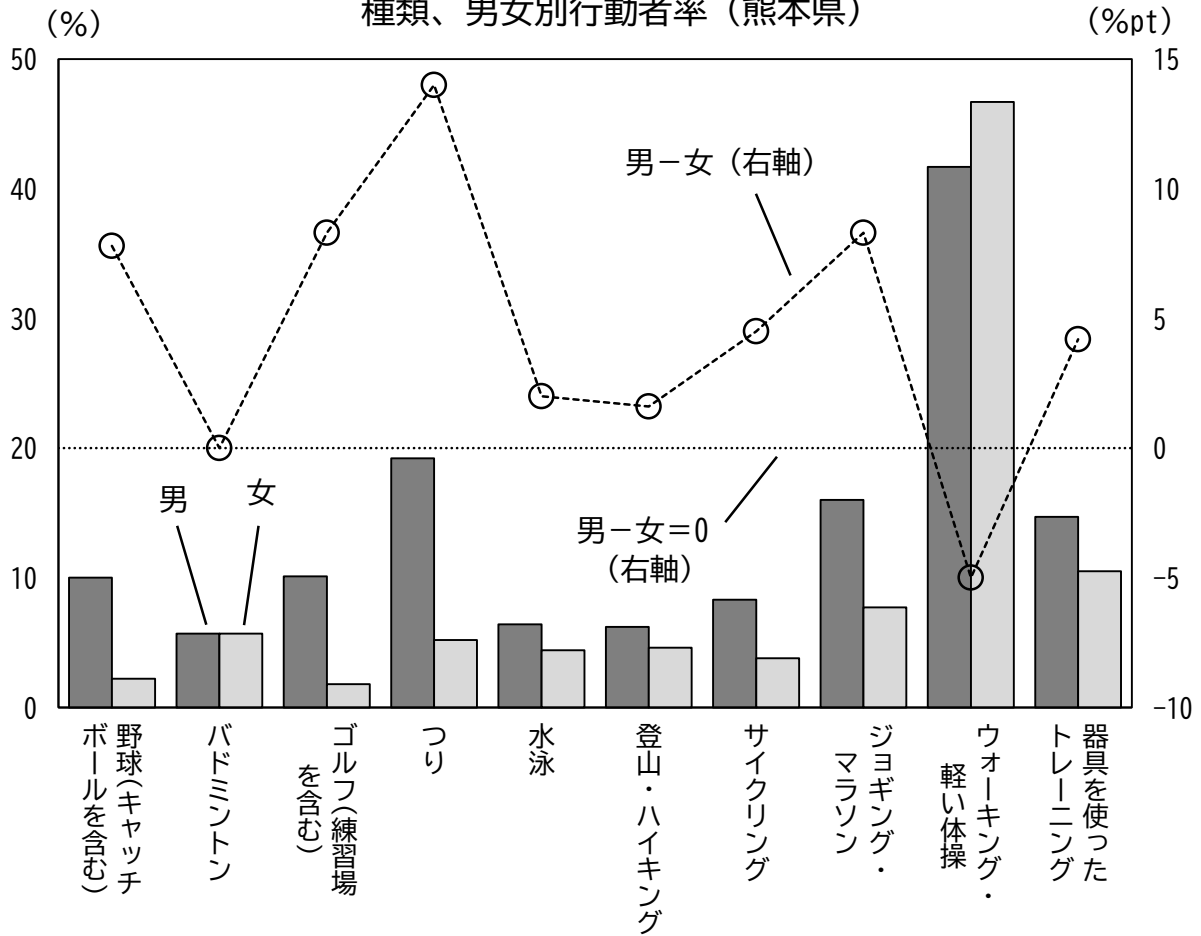
※ 男女を合わせた総数の行動者率が5%以上のもの(22種類のうち10種類)を抜粋した。

【熊本県の行動者率、男女別・種類別】

熊本県における行動者率を、男女別・種類別にみると、最も高いのは、男女ともに、「ウォーキング・軽い体操」であり、男性が41.7パーセント、女性が46.7パーセントとなっている。次いで男性は「つり」が19.2パーセント、「ジョギング・マラソン」が16.0パーセントなどとなっている。女性では「器具を使ったトレーニング」が10.5パーセントなどとなっている。「ウォーキング・軽い体操」の行動者率は、男性では第2順位の2倍以上、女性では4倍以上という高水準である。(図3-4)

図3-4

「スポーツ」の
種類、男女別行動者率（熊本県）



※ 男女を合わせた総数の行動者率が5%以上のもの（22種類のうち10種類）を抜粋した。

(参考) 「高齢者が取り組んでいるスポーツ」 (令和3年 (2021年) 調査から)

※ 「スポーツ」の種類 (種目) の多くは、高齢者ほど行動者率が低いという傾向が強い。しかし、中にはその傾向が弱いものや逆転しているものがある。そのような種類のスポーツを抜き出して、年齢階級別の行動者率の表を作成してみる。

※ (定義) ここでは、

- ・熊本県において、「65～74歳」と「75歳以上」の行動者率 (男女計) のいずれかが、年齢構成別で2番目に高い行動者率の2分の1に達している種類

を、「高齢者が取り組んでいるスポーツ」とした。

★ 「ゴルフ (練習場を含む)」が「高齢者が取り組んでいるスポーツ」に該当していることの確認

「ゴルフ (練習場を含む)」の年齢階級別行動者率が2番目に高いのは、35～44歳の8.1パーセント。この2分の1は4.05パーセント。65～74歳の行動者率は7.4パーセントであり、これ (4.05パーセント) に達している。よって、「ゴルフ (練習場を含む)」は、「高齢者が取り組んでいるスポーツ」に該当する。

※ (全国との食い違い) この基準を全国に当てはめるとき、該当しなくなるものは、「つり」である。また、同じ基準のもとで、全国では該当するが、熊本県では該当しない種類は、「その他」である。

「高齢者が取り組んでいるスポーツ」の年齢階級別行動者率

(令和3年、男女計、熊本県、%)

	総数	10～14歳	15～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	75歳以上	グラフ
ゴルフ (練習場を含む)	5.8	1.2	4.7	4.9	8.1	8.4	5.2	7.4	2.7	
グラウンドゴルフ	3.0	1.6	-	0.2	0.2	1.2	1.4	4.8	10.6	
つり	11.8	20.3	12.3	16.9	14.1	16.6	8.4	10.6	3.5	
登山・ハイキング	5.4	4.5	6.2	6.5	8.2	6.3	5.0	4.5	2.4	
ウォーキング・軽い体操	44.3	37.1	41.3	35.8	44.1	46.0	54.0	53.4	34.2	
器具を使ったトレーニング	12.5	12.6	17.0	17.2	14.0	11.1	12.8	11.4	7.3	

※ 行動者率が、75歳以上の階級で最も高くなる種類は、「グラウンドゴルフ」だけである。

4 趣味・娯楽

(1) 1年間に「趣味・娯楽」を行った人は、熊本県で127万1千人。行動者率は84.1パーセントであり、全国よりも2.2ポイント低い。

【概況】

熊本県における「趣味・娯楽」の行動者数（男女計）は127万1千人（男性601千人、女性670千人）である。行動者率は84.1パーセント（男性83.8パーセント、84.4パーセント）であり、全国よりも2.2ポイント低い（男性は3.0ポイント低く、女性は1.4ポイント低い。）。（表4）

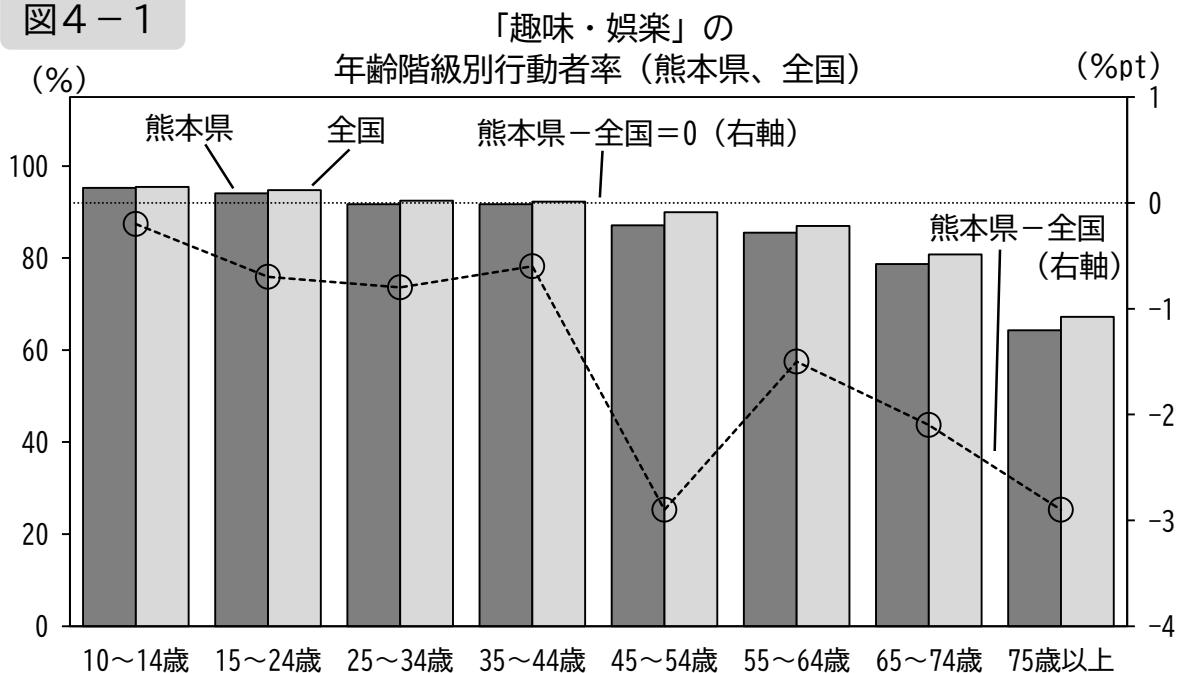
（表4）

	行動者数（千人）			行動者率（%）		
	男	女	男女計	男	女	男女計
熊本県	601	670	1,271	83.8	84.4	84.1
全国	47,570	49,462	97,031	86.8	85.8	86.3

【熊本県と全国、年齢階級別】

年齢階級別にみると、熊本県では、15～24歳が94.1パーセントと最も高くなっている。熊本県と全国の行動者率は、いずれも、44歳以下の4つの階級ではおおむね同水準であるが、それより高い階級では、徐々に低くなる。なお、全ての年齢階級で、

図4-1

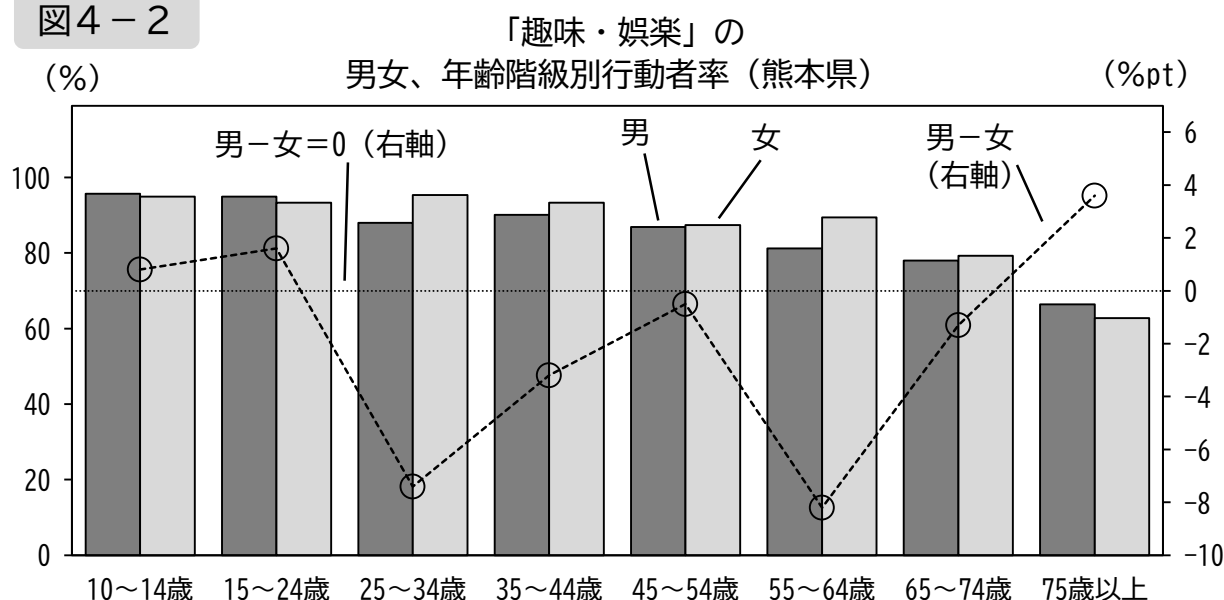


熊本県の行動者率の方が、全国よりも低い。(図4-1)

【熊本県の行動者率、男女別・年齢階級別】

熊本県における「趣味・娯楽」の行動者率を、男女別・年齢階級別にみると、男性では、24歳以下の2つの階級の高水準の後、徐々に低下し、55～64歳の階級から低下が早まる。女性の場合は、25～34歳の階級でも高水準のまま（「スポーツ」と対照的である。）であり、55～64歳の階級でもそれほど低下していない。そのため、25～34歳と55～64歳の階級では、男性に対する女性の超過幅が大きくなっている。逆に、10～14歳、15～24歳、75歳以上の階級では、男性の行動者率の方が高くなっている。(図4-2)

図4-2



(2) 「趣味・娯楽」の種類別行動者率は、5年前と比較して「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」、「スマートフォン家庭用ゲーム機などによるゲーム」などが上昇、「カラオケ」、「遊園地、動植物園、水族館などの見物」などが低下した。

【熊本県の行動者率、種類別・4回分】

熊本県における「趣味・娯楽」の行動者率を、種類別に5年前と比較すると、

- ✓ 「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」及び
- ✓ 「スマートフォン家庭用ゲーム機などによるゲーム」が7.5ポイントの上昇、

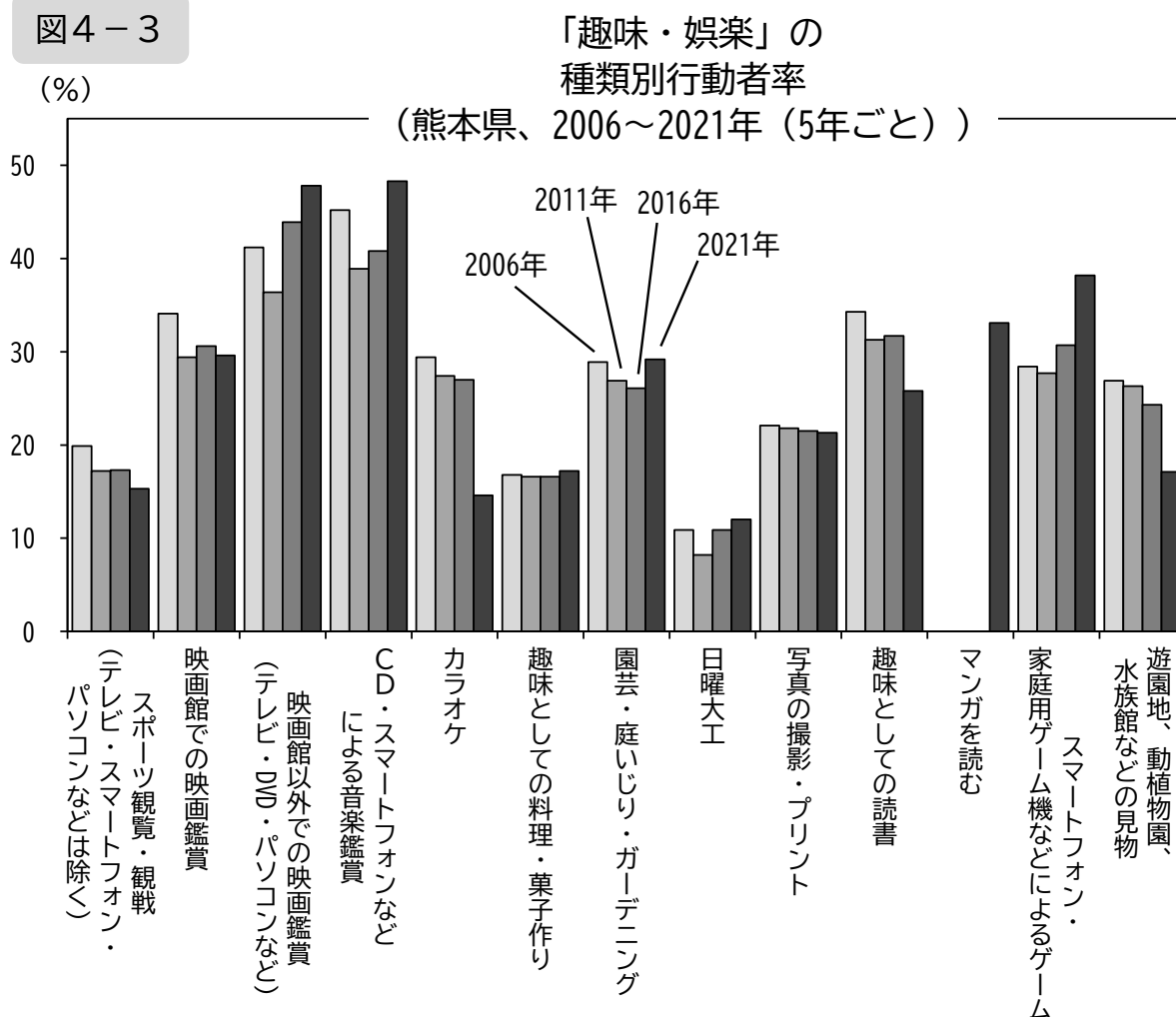
- ✓ 「カラオケ」が12.4ポイントの低下、
 - ✓ 「遊園地、動植物園・水族館などの見物」が7.2ポイントの低下
- などとなっている。

令和3年（2021年）調査では、

- ✓ 「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」が48.3パーセントで最も高く、次いで、
 - ✓ 「映画館以外での映画鑑賞（テレビ・DVD・パソコンなど）」が47.8パーセント、
 - ✓ 「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」が38.2パーセント
- などとなっている。（図4-3）

※ 図4-3では、平成18年（2006年）調査からのデータをグラフ化している。

図4-3



※ 男女を合わせた総数の行動者率が10%以上のもの（35種類のうち13種類）を抜粋した。

【熊本県の行動者率、男女別・種類別】

熊本県における「趣味・娯楽」の行動者率を、男女別・種類別にみると、男性は、

- ✓ 「映画館以外での映画鑑賞（テレビ・DVD・パソコンなど）」が 49.2 パーセントで最も高く、次いで
- ✓ 「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」が 47.6 パーセント、
- ✓ 「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」が 42.2 パーセント

などとなっている。

女性は、

- ✓ 「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」が 48.8 パーセントで最も高く、次いで
- ✓ 「映画館以外での映画鑑賞（テレビ・DVD・パソコンなど）」が 46.5 パーセント

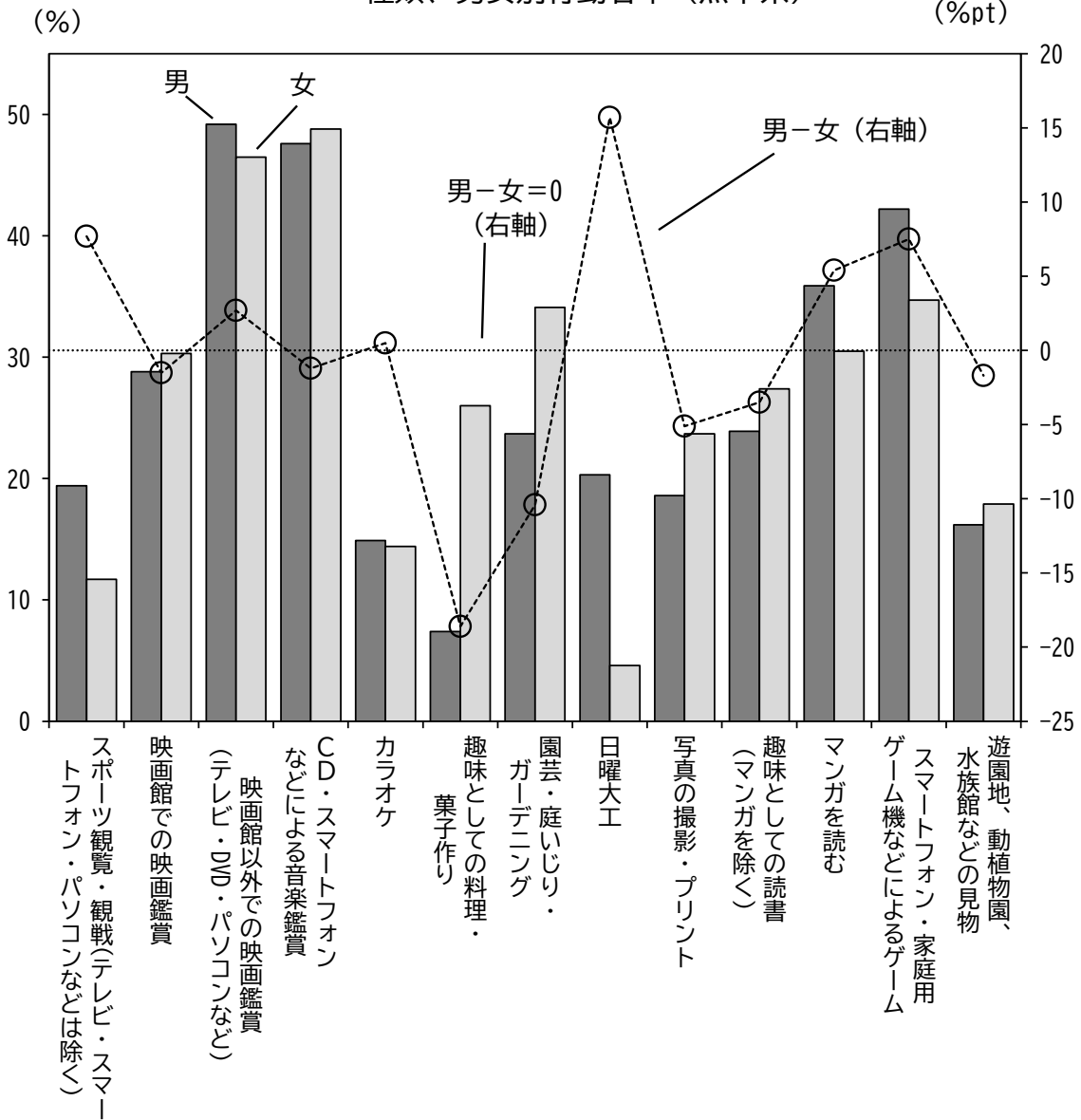
などとなっている。

※ なお、「映画館での映画鑑賞」の行動者率は、男性が 28.8 パーセント、女性が 30.3 パーセントであった。（図4-4）

※ 令和3年（2021年）調査では、従来の「趣味としての読書」が、「趣味としての読書（マンガを除く）」と「マンガを読む」に分割されたため、連続性がない。図4-3のグラフの項目名には、「趣味としての読書」を使用した。⇒また、「趣味としての読書（マンガを除く）」、「マンガを読む」の行動者率について、次の参考表1、参考表2を作成した。

図4-4

「趣味・娯楽」の
種類、男女別行動者率（熊本県）



※ 男女を合わせた総数の行動者率が10%以上のもの（35種類のうち13種類）を抜粋した。

参考表1 「趣味としての読書（マンガを除く）」と「マンガを読む」の比較
 （人口集中地区とそれ以外、男女別）
 （熊本県と全国、令和3年（2021年）） （%、%pt）

地域	種類 属性	趣味としての 読書（マ ンガを除 く）(a)	マンガを読 む (b)	差 (a)-(b)
熊本県	男女計	25.8	33.1	-7.3
全国	男女計	31.6	36.8	-5.2
熊本県	男	23.9	35.9	-12.0
熊本県	女	27.4	30.5	-3.1
全国	男	28.7	40.1	-11.4
全国	女	34.4	33.7	0.7
熊本県	人口集中地区	31.6	37.1	-5.5
熊本県	人口集中地区以外	19.7	29.0	-9.3
全国	人口集中地区	34.5	39.0	-4.5
全国	人口集中地区以外	23.8	31.1	-7.3
熊本県	人口集中地区・男	29.6	38.7	-9.1
熊本県	人口集中地区・女	33.5	35.7	-2.2
熊本県	人口集中地区以 外・男	17.9	33.0	-15.1
熊本県	人口集中地区以 外・女	21.4	25.4	-4.0
全国	人口集中地区・男	31.6	42.4	-10.8
全国	人口集中地区・女	37.3	35.8	1.5
全国	人口集中地区以 外・男	20.8	34.2	-13.4
全国	人口集中地区以 外・女	26.6	28.1	-1.5

※ 人口集中地区について（総務省統計局）

https://www.stat.go.jp/data/chiri/map/c_koku/kyokaizu/index.html

参考表2 「趣味としての読書（マンガを除く）」と「マンガを読む」の比較
 （年齢階級別、男女計）
 （熊本県と全国、令和3年（2021年）） （%、%pt）

地域	種類 属性	趣味としての 読書（マ ンガを除 く）（a）	マンガを読 む（b）	差 （a）-（b）
全国	総数	31.6	36.8	-5.2
全国	10～14歳	42.6	70.2	-27.6
全国	15～24歳	34.4	61.3	-26.9
全国	25～34歳	32.6	62.3	-29.7
全国	35～44歳	32.6	58.0	-25.4
全国	45～54歳	34.2	43.2	-9.0
全国	55～64歳	33.6	23.7	9.9
全国	65～74歳	29.7	8.3	21.4
全国	75歳以上	21.4	2.7	18.7
熊本県	総数	25.8	33.1	-7.3
熊本県	10～14歳	34.6	63.5	-28.9
熊本県	15～24歳	33.9	62.5	-28.6
熊本県	25～34歳	26.8	57.7	-30.9
熊本県	35～44歳	26.8	56.0	-29.2
熊本県	45～54歳	31.0	39.2	-8.2
熊本県	55～64歳	25.8	21.4	4.4
熊本県	65～74歳	22.2	7.5	14.7
熊本県	75歳以上	15.0	1.1	13.9

5 旅行・行楽

（1）1年間に「旅行・行楽」を行った人は、熊本県で76万3千人。行動者率は50.5パーセントであり、全国よりも1.0ポイント高い。

【概況】

熊本県における「旅行・行楽」の行動者数（男女計）は76万3千人（男性35万9千人、女性40万4千人）である。行動者率は50.5パーセント（男性50.0パーセント、女性50.9パーセント）であり、全国よりも1.0ポイント高い（男性は1.1ポイント高く、女性は0.8ポイント高い。）。（表5）

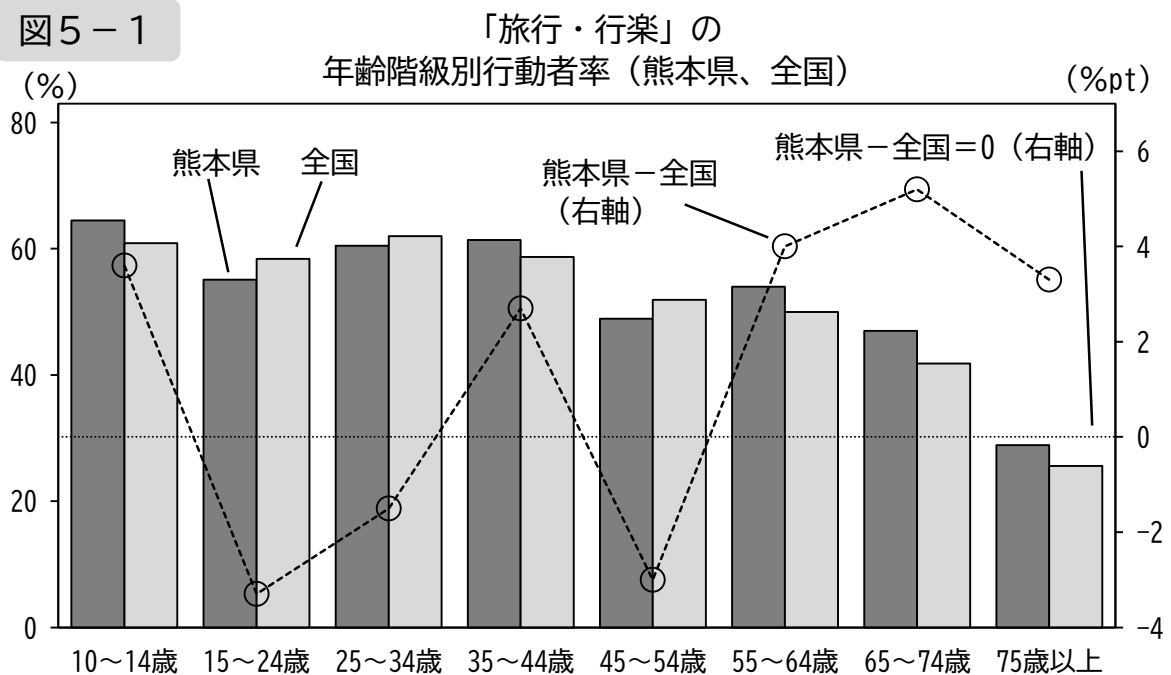
(表5)

	行動者数（千人）			行動者率（％）		
	男	女	男女計	男	女	男女計
熊本県	359	404	763	50.0	50.9	50.5
全国	26,814	28,868	55,682	48.9	50.1	49.5

【熊本県と全国、年齢階級別】

年齢階級別にみると、熊本県では、10～14歳が64.5パーセントと最も高くなっている（全国では25～34歳が最も高い。）。熊本県では、55～64歳で、一旦、高くなるが、それ以上の年齢階級では低下する（全国では25～34歳のピークから徐々に低下する。）。更に、熊本県の行動者率が全国を下回る階級は、15～24歳、25～34歳、45～54歳の3階級である。（図5-1）

図5-1

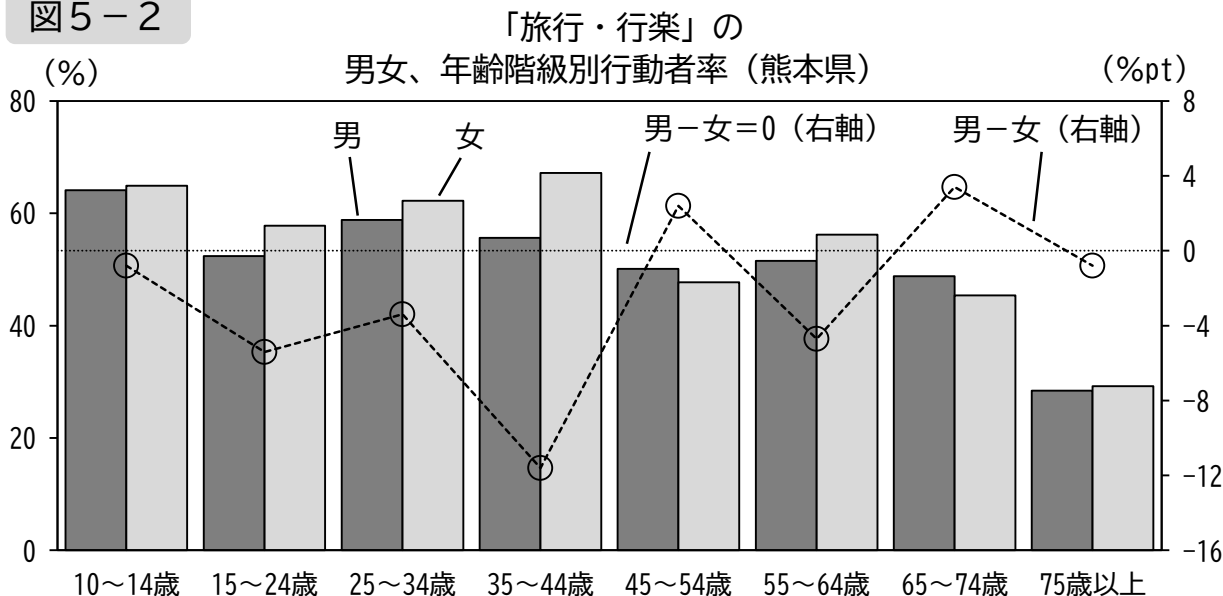


【熊本県の行動者率、男女別、年齢階級別】

熊本県における「旅行・行楽」の行動者率を、男女別・年齢階級別にみると、最も高いのは、男性では10～14歳の64.1パーセント、女性では35～44歳の67.2パーセントである。最も低いのは、男女とも75歳以上の階級であり、男性では28.4パーセント、女性では29.2パーセントであり、1つ下の65～74歳の階級と比べて、それぞ

れ 20.4 ポイント、16.2 ポイント低くなっている。女性の行動者率が最も高い 35～44 歳では、男性に対する超過幅は、11.6 ポイントとなっている。男性の行動者率が女性を上回っているのは、45～54 歳、65～74 歳の 2 階級である。（図 5－2）

図 5－2



(2) 「旅行・行楽」の種類別行動者率は、全ての種類で5年前より低下した。

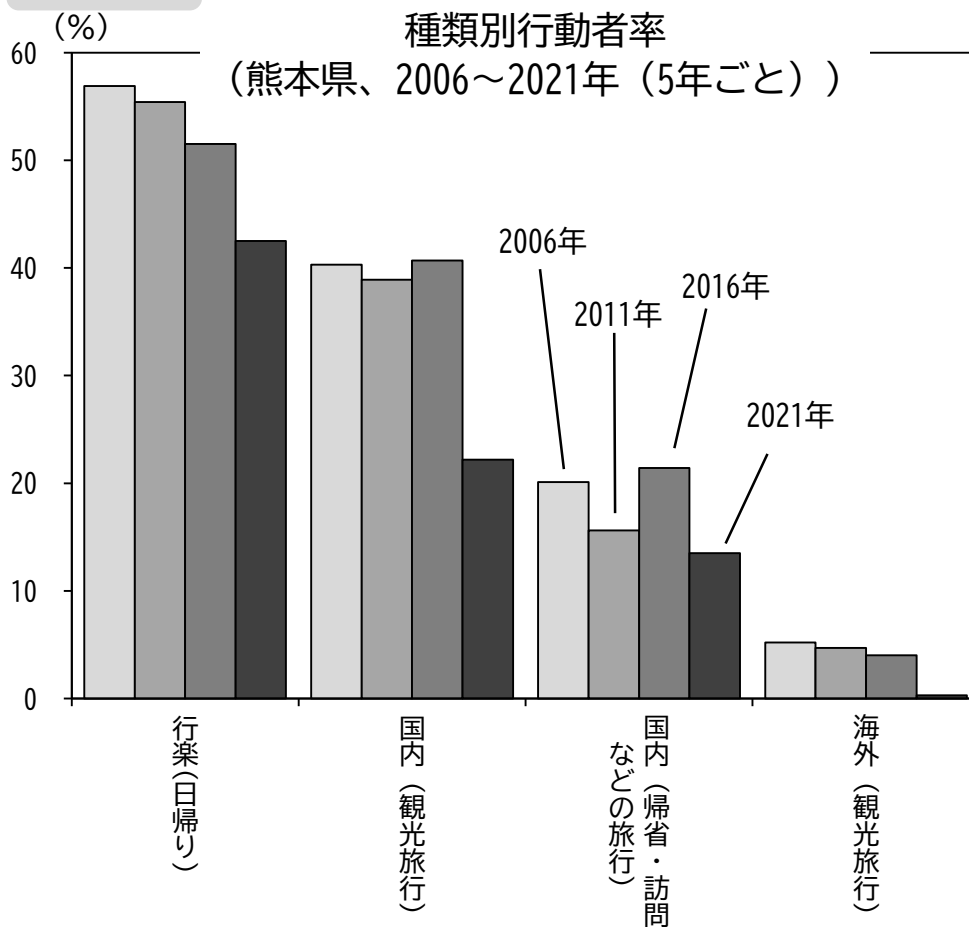
【熊本県の行動者率、種類別・4回分】

熊本県における「旅行・行楽」の行動者率を、種類別に5年前と比較すると、いずれも低下し、国内の「観光旅行」が18.5ポイント、「行楽（日帰り）」が9.0ポイント、国内の「帰省・訪問などの旅行」が7.9ポイント、海外の「観光旅行」が、3.7ポイントの低下となっている。特に、海外の「観光旅行」は、4.0パーセントから、その1割に満たない0.3パーセントに低下した。なお、平成18年（2006年）調査以降の動きをみると、「行楽（日帰り）」と海外の「海外（観光旅行）」では、一貫して行動者率が低下している。（図5－3）

図5-3

「旅行・行楽」の
種類別行動者率

(熊本県、2006~2021年(5年ごと))



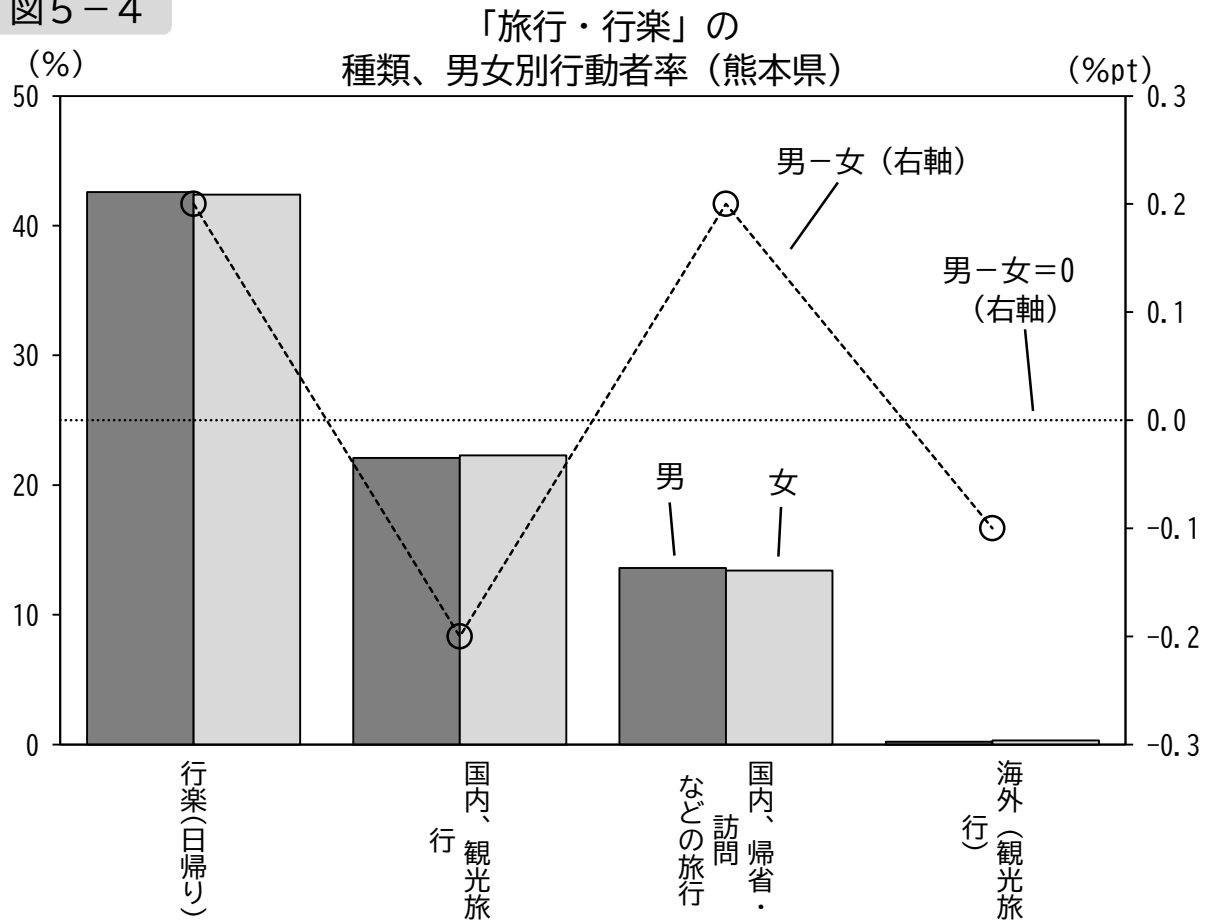
行動者率を、熊本県において、男女別・種類別にみると、男女間の行動者率の差はほとんどみられず、最大でも0.2ポイントである。(図5-4)

【熊本県の行動者率、行楽(日帰り)、10回以上】

※ 図5-4のとおり、男女間で種類別行動率の差がほとんど見られなかったため、多回数の行動者が比較的多い「行楽(日帰り)」について、10回以上の行動者率を比較する。

令和3年(2021年)調査では、10回以上の行動者率は、男性12.1パーセント、女性12.3パーセントであり、女性が0.2ポイント上回った。平成28年(2016年)調査では、男性14.2パーセント、女性16.4パーセントであり、女性が2.2ポイント上回った。平成23年(2011年)、平成13年(2001年)調査においても、同様に女性の10回以上行動者率が、男性よりも高い。(参考表3)

図5-4



参考表3

「行楽（日帰り）」の10回以上行動者率（10歳以上）
 （1年間に10回以上「行楽（日帰り）」に行った人の割合、
 その男女差、熊本県）

(%、%pt)

	2006年	2011年	2016年	2021年
男	18.6	17.0	14.2	12.1
女	20.0	20.7	16.4	12.3
男-女	-1.4	-3.7	-2.2	-0.2

令和3年社会生活基本調査における年齢階級別・男女別・推定人口（全国、熊本県）

推定人口（全国）
（千人）

	総数	10～14歳	15～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	75歳以上
総数	112,462	5,338	11,755	12,844	15,420	18,807	14,993	17,060	16,246
男	54,829	2,736	6,007	6,567	7,814	9,474	7,428	8,122	6,680
女	57,633	2,602	5,747	6,276	7,606	9,332	7,566	8,937	9,566

推定人口（熊本県）
（千人）

	総数	10～14歳	15～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	75歳以上
総数	1,511	81	151	154	201	219	213	257	236
男	717	41	76	76	99	106	102	123	94
女	794	40	74	77	101	113	112	135	142

(「ボランティア活動」関係の参考資料)

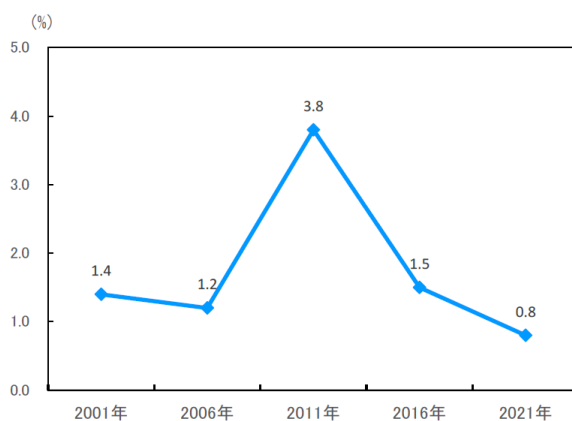
「令和3年社会生活基本調査 生活時間及び生活行動に関する結果 結果の概要」(令和4年8月31日、総務省統計局)から転載。

2 ボランティア活動

(2) 「災害に関係した活動」の行動者率は熊本県、佐賀県及び長野県で高くなっている

「災害に関係した活動」の行動者率の推移をみると、東日本大震災の発生した2011年は3.8%と高い水準となっていたが、2021年は0.8%と熊本地震の発生した2016年と比べ低下している。(図2-3)

図2-3 「災害に関係した活動」の行動者率の推移(2001年~2021年)



また、都道府県別にみると、熊本県が2.5%と最も高く、次いで佐賀県が1.8%、長野県が1.4%などとなっている。(図2-4)

図2-4 「災害に関係した活動」の都道府県別行動者率(2021年)

